

日本工芸会へのご支援のお願い
— 個人の方向け「サポート会員」（寄附金）制度のご案内 —

公益社団法人 日本工芸会は、文化財保護法にのっとり、無形文化財の保護育成を図るため、工芸作家が中心となって、昭和 30 年（1955 年）に設立されました。伝統工芸技術の保存と活用を図り、文化の向上に寄与することをめざし、重要無形文化財保持者（いわゆる「人間国宝」）、伝統工芸作家、技術者等で組織しています。

当会は、「日本伝統工芸展」の開催をはじめ、伝統工芸作品の公開、伝承者養成、調査研究、記録の作成、海外への紹介などのさまざまな活動を展開するとともに、日本が世界に誇る工芸の伝統を守り発展させ、さらには国際的にも発信していく役割を担っています。

しかしながら、当会の活動は、これまで主に会員の会費と展覧会への出品料でまかなってまいりましたが、昨今の厳しい経済状況のもと、自助努力をするとともに、一層の財政的基盤の強化を図る努力が欠かせない状況となってまいりました。

このような趣旨から、平成 29 年（2017 年）より、日本工芸会各支部に、個人の方を対象とした「サポート会員」制度を設けました。日本工芸会の活動の趣旨にご賛同いただける個人の方向けの寄附会員制度です。いただいた寄附金は、当会の公益目的事業（展覧会事業、調査研究、伝承者養成 等）に活用させていただきます。ご寄附をいただいた方への感謝の気持ちとして、各種の特典をご用意しております。また、当会への寄附金は税制上の優遇措置が受けられます。

なにとぞ、当会の趣旨にご賛同賜り、ご支援いただけますよう、心よりお願い申し上げます。

公益社団法人 日本工芸会
理 事 長 林 田 英 樹
東日本支部長 根 津 公 一

日本工芸会東日本支部は日本工芸会の九つの支部の中で会員数、また地域（関東甲信越、東北、北海道）においても最大の支部でございます。秋の日本伝統工芸展は日本橋三越から全国に巡回して参ります。また春には東日本伝統工芸展を日本橋三越にて開催し、盛岡の川徳百貨店にて巡回展も開催し、札幌での開催も予定しております。

是非 東日本支部のサポート会員としてご支援賜りますようお願い申し上げます。

公益社団法人 日本工芸会 東日本支部
幹 事 長 高 橋 寛

公益社団法人

日本工芸会 東日本支部

「高度な手わざで創意を示す」

人形



木竹工



諸工芸

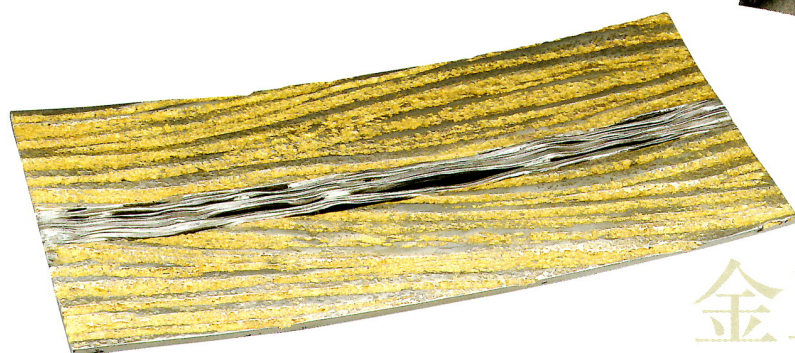
陶芸



漆芸



染織



金工



染織家 佐々木苑子氏(重要無形文化財「絢織」保持者)の制作風景



上／竹工芸家 藤沼昇氏(重要無形文化財「竹工芸」保持者)の制作風景
下／彫金家 桂盛仁氏(重要無形文化財「彫金」保持者)の制作風景

「伝統工芸」とは

「伝統工芸」という言葉は、今日、極めて日常的に使われるようになりましたが、現在のような日本の「伝統」や「伝統工芸」という考え方が成立したのは20世紀、特に戦後に入ってからのことになります。

「伝統工芸」は「伝承工芸」とは異なります。伝統工芸の作家たちは、昔ながらのものをただ再現するのでなく、歴史の中で培われた技術を作家が個々に工夫し、また素材への深い理解を通して、現代感覚に即した新しいものを生み出すのです。その意味で「伝統工芸」とは日本工芸会や支部といった組織をも超え、工芸なるものの最も重要な特質を示しています。

東日本支部の作家たちは、この「伝統」や「伝統工芸」という世界に誇るべき価値を、作品という目に見える姿かたち具現化することを目指して日夜精進しているのです。

日本工芸会東日本支部とは

1955年(昭和30年)、工芸技術の保存・活用、文化の発展を目的に、工芸作家たちが中心となって「日本工芸会」という団体が設立されました。日本工芸会東日本支部は、1961年に日本工芸会東京支部として活動を始め、1993年に日本工芸会東日本支部と改称し、半世紀以上の歴史を携えて現在に至っています。

東日本支部は日本全国に9つある支部の内でも最大規模を誇り、関東甲信越から北海道までを含む広範な地域の作家たちが所属し、2018年現在、会員は、準会員、研究会員を合わせ約700名に及びます。陶芸・染織・漆芸・金工・木竹工・人形・諸工芸から成る7つの部門はそれぞれに充実し、作風の多様性も際立っています。

展覧会活動「東日本伝統工芸展」

東日本支部の代表的な活動の一つは、毎年春に開催され、一部は巡回もする公募展「東日本伝統工芸展」です。会員や一般応募者は勿論、重要無形文化財保持者（人間国宝）の作品さえも、厳正・公平な鑑審査を経て選ばれ、毎年約400点もの優れた作品が部門ごとに展示されます。

伝統工芸の作家たちは、日本工芸会の本展（日本伝統工芸展）、東日本伝統工芸展のような支部展、工芸の部門ごとの部会展と、通常年3回程度の出品の機会がありますが、この東日本伝統工芸展はとりわけ若手の作家たちもチャレンジしてくることが少なくない展覧会です。その意味で、伝統工芸の未来を担うフレッシュな

作品に出会う機会も多いことでしょう。

展覧会の会期中には、鑑審査に携わった学識者や作家が交代で、会場において列品解説を行います。工芸作品は、引いて見た時のアウトラインや構図の面白さとともに、間近で見た時の細部の精緻な美しさを楽しむことができます。解説を聴きつつ、ぜひ時間をかけて鑑賞することをお薦めします。特に気に入った作品があれば購入することもできます。

また、展覧会図録は、毎年の入選者・受賞者の歩みを記録していく貴重な資料となるとともに、注目する作家を応援していくうえでも作風の変遷を知る手掛かりになります。

研究活動・普及活動

東日本支部では、毎年、学識者等を招いて講演会を開催し、知識や情報、思考の研鑽に努め、また、部門ごとに研究会を実施して、作家同士、切磋琢磨する機会を設けています。自由に意見を交換し、互いに学び合う姿勢が東日本支部の特徴です。

また、巡回先の会場では、出品作家による実演やワークショップが開催されることがあります。作家たちと直接交流し、制作現場の一端を知る機会を提供しています。

そうした東日本支部の活動は『日本工芸会東日本支部会報』にまとめられ、年1回、会員や関係者に伝えられています。

一人でも多くの方々に伝統工芸の魅力に触れて頂き、伝統工芸の未来を応援して頂けたら幸いです。



東日本伝統工芸展（日本橋三越本店）の会場風景



鑑審査員による東日本伝統工芸展会場での列品解説



上／ワークショップ風景
下／これまで発行した会報



日本工芸会東日本支部へのご支援のお願い

日本工芸会東日本支部は、各自がそれぞれの技を磨き、現代感覚に即した創造性豊かな作品を生み出すことを志す作家(重要無形文化財保持者を含む)たちが中心となって組織している団体です。優れた伝統技術を未来に残していくため、より多くの方々のご支援、ご協力が必要です。私たちの活動をご理解いただき、支援企業、賛助会員、サポート会員として日本工芸会東日本支部の活動を是非応援して頂きたいお願い申し上げます。

支援会員(支援企業、賛助会員、サポート会員)の寄付金(会費)は税制上の優遇措置を受けます。



これまで発行した図録や出版物

問合せ先

公益社団法人 日本工芸会 東日本支部
〒101-0043 東京都千代田区神田富山町28大曾根ビル3階
TEL 03-5295-2118 FAX 03-5295-2119
HP <http://nihonkogeikai-east.jp/>
MAIL higashinihon@nihonkogeikai.or.jp